

令和 7 年度事業報告書

第 1 事業概況

健康保険組合を取り巻く環境は厳しさを増しており、健保連の報告では、全国 1,364 組合のうち約 7 割が赤字となっています。背景には、高齢化の進行による医療費の増加や、高齢者医療への拠出負担の増大があります。賃上げによる保険料収入は増加しているものの、支出の増加が収入の伸びを上回った状況となっています。このような中、当組合の令和 7 年度決算は、令和 6 年度の鬼怒川保養所売却益を除くと、令和 4 年度以来 3 年ぶりの黒字決算となりました。これは、賃上げによる保険料収入の増加に加え、各種保険事業の見直しや廃止、保険料率の引き上げなどによるものです。しかしながら、協会けんぽの平均保険料率が引き下げられる中、保険料率の引き上げによって収支改善が図られている状況を踏まえると厳しい財政状況が解消できたとは言えません。このため、将来にわたって健保組合を存続させるには、疾病予防や重症化予防の取り組みを一層推進していくことが不可欠となります。

このように厳しい状況が続く中ではありますが、当組合の令和 7 年度決算は収支の差引で、621,110 千円の残金が生じました。

一般勘定では、収入において、保険料収入が 4,486,565 千円となり、前年度実績 3,793,745 千円に対して 692,820 千円（18.3%）の増加となりました。

一方支出については、保険給付費（法定）が 2,035,009 千円で、前年度実績 2,030,107 千円に対して 4,902 千円（0.24%）の微増ではあるものの、被保険者数・被扶養者数とも減少している中であって、令和 4 年度以降 20 億円を超える高い支出が続いています。

また、納付金では、前期高齢者納付金が 727,072 千円と、前年度実績 662,505 千円に対して 64,567 千円（9.74%）の増加となりました。後期高齢者支援金は 930,127 千円で、前年度実績 831,421 千円に対して 98,706 千円（11.8%）の増、納付金・支援金等の合計は 1,657,200 千円となり、前年度実績 1,493,927 千円に対して 163,273 千円（10.9%）の増と、いずれも増加傾向が続いています。

保健事業では、疾病の発生や重症化・長期化を防ぐため、生活習慣病予防健診をはじめ、人間ドック、脳ドック、大腸がん検診、受診サポート、流感予防接種、健康電話相談等を実施し加入者の健康保持・増進に向けて取り組みました。また、「健保だより」や育児書「わくわく育児」を配付して健康意識の高揚に努めました。

以上により、一般勘定総額では、収入 4,664,135 千円、支出 4,043,025 千円で、収支差引では 621,110 千円の残金を生じました。このうち任意継続被保険者の前納保険料から調整保険料分を財政調整事業繰越金として 164 千円を、子ども・子育て支援金分を繰越金として 290 千円を令和 8 年度へ繰越し、620,655 千円を別途積立金に積み立てます。

次に介護勘定総額では、保険料収入 549,798 千円、支出 435,382 千円となり、収支差引 114,416 千円の残金を生じましたので介護準備金に積み立てます。